

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議員 槻山 隆 様



報告年月日	令和2年 2月12日 (水)		
実施日 (期間)	令和2年 1月18日 (土)		
実施場所 (行先等)	盛岡地域交流センター マリオス (盛岡市)		
事業区分 (いずれかに○)	○ 研 修 調査研究 要望・陳情活動 会議		
事業内容	ひとり親家庭支援者養成講座		
報告者	(会派名) 一関市議会 公明党 (代表者) 岩淵 優		
参加者	議員 岩淵 優	議員	①
	議員	議員	①
	議員	議員	①
	議員	議員	①
	議員	議員	①
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・・・別紙 (1) 2. 概要・・・・・・・・・・別紙 (2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙 (3)		
主要 資料名	1. 講座内容		
	2. 岩手県子どもの生活実態調査結果 (中間報告) の概要 (抜粋)		
	3. 親や子どもの居場所づくりなど (抜粋)		
	4. ひとり親家庭支援 必要な支援と取り組み (抜粋)		
	5. 親の気持ち・子どもの気持ち (抜粋)		
	6. これからのひとり親家庭支援 (抜粋)		

別紙（１）

1. 目的

- (1) SDGsの理念に基づいた活動を学ぶため
- (2) ひとり親家庭の実態及び支援について学ぶため
- (3) 一関市の今後の政策や事業の参考にするため

別紙（２）

2. 概要

ひとり親家庭支援者養成講座

*別紙資料による

別紙（３）

3. 参考とすべき事項・所感

- (1) 岩手県子どもの生活実態調査結果（中間報告）の概要
 - ①岩手県の実態が鮮明に出ている内容であり、予想を上回るデータであり極めて参考となるものであった
 - ②当市のこれからの施策に大いに参考となった
- (2) ひとり親家庭への支援
 - ①SDGsの理念に基づいた支援の重要性
 - ②支援する側のスキルアップが必要
- (3) 所感
 - ①現実を直視し、「誰一人取り残さない」という理念に裏付けられた行動の素晴らしさを痛感した
 - ②当市も多くの人材発掘・育成に取り組み続けていくことが重要であると再認識した

○日程・講座内容

各回とも午前9時25分より、オリエンテーション、開会挨拶を行いますので、それまでに受付をお願いします。

オリエンテーション	9:25		
開会式	9:25	岩手県担当課挨拶	
第I講座	9:30 ~ 10:00	岩手県の取り組み 実態調査・出前講座など	岩手県担当者
第II講座	10:00 ~ 10:40	地域の取り組み 親や子どもの居場所づくりなど	山屋理恵氏
第III講座	10:50 ~ 12:10	ひとり親家庭支援 必要な支援と取り組み	赤石千衣子氏
昼休み	12:10 ~ 13:00		
第IV講座	13:00 ~ 14:20	親の気持ち・子どもの気持ち	大森順子氏
第V講座	グループワーク (北上・久慈・遠野会場)	ともに生きる 支えあうしくみづくり	中野祐子氏
	総括講座 (盛岡会場)	これからのひとり親家庭支援 ~SDGsの視点から~	大崎麻子氏
まとめ・閉会	16:10	総括・アンケート用紙記入	

～ 講師プロフィール ～

赤石千衣子氏 シングルマザーサポート団体全国協議会 代表/認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長

非婚のシングルマザーになり、共同保育の保母、女性団体の編集部で働き、子どもを育てる。認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事長。当事者の視点を大切にシングルマザーと子どもたちが生き生きらせる社会をめざす。社会保障審議会ひとり親家庭の支援施策の在り方に関する専門委員会参加人。社会福祉士。キャリアコンサルタント。シングルマザーサポート団体全国協議会代表。著書に「ひとり親家庭」(岩波新書)ほかがある。

大崎麻子氏 NPO法人Gender Action Platform 理事/関西学院大学 客員教授

国連開発計画(UNDP)でジェンダー平等と女性のエンパワーメントの推進を担当し、世界各地で女性の雇用・起業支援、政治参加の促進等を手がけた。東日本大震災の被災地の女性支援に従事するなど、現在は、フリーのジェンダー専門家として国内外で幅広く活動中。内閣府男女共同参画推進連携会議議員、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事、UN Women/ILO/EU 協調プロジェクト「WE Empower」日本コーディネーターなどを務めている。幼少期を岩手で過ごした。

大森順子氏 NPO法人こどもセンターぬっく 理事/シングルマザーのつながるネット まえむきIPPO

1988年に3歳の一人娘をつれて離婚。その前後からシングルマザーと子どもに関わる活動を始める。2013年から「女性のための離婚相談 まえむきIPPO」を主宰。この活動を広げて、2016年からかつての仲間たちと「シングルマザーのつながるネット まえむきIPPO」としてネットワークづくりを開始。仕事はDV相談や人権講座の企画運営。趣味はダンス、読書、映画鑑賞、英会話など。娘から「欲望に忠実な女」と呼ばれている。

山屋理恵氏 NPO法人インクルいわて 理事長

2011年、生活困窮者、被災者支援に携わりながら、ひとり親家庭、困難を抱える人々を支援する「インクルいわて」を設立。ビジョンは「家族のカタチに関わらず誰もが生き生きと暮らしていける包摂された社会(Inclusive Society)の実現」。多分野・多職種メンバーとともに、「当事者支援と地域づくり」を両輪に、岩手に包摂の輪を広げるべく活動している。ザリガニ釣りが得意。

(氏名あいうえお順)

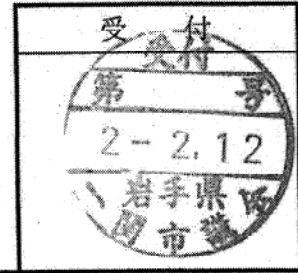
----- 参加申込書 -----

下記申込書に必要事項をご記入の上、電話、FAXまたは電子メールでお申し込みください。一機関から複数の方のお申し込みの際は、お手数ですがお一人ずつお申し込みください。

希望日・会場	令和	年	月	日	会場：北上市 久慈市 遠野市 盛岡市	いづれか 1つを○
お名前				性別	男・女・その他	
ご所属				相談歴	年	
連絡先電話番号				メールアドレス		

調査研究等事業報告書 (会派用)

一関市議会議長 槻山 隆 様



報告年月日	令和2年 2月12日 (水)		
実施日 (期間)	令和2年 1月20日 (日)		
実施場所 (行先等)	アットビジネスセンター池袋駅前別館803号室 (東京都)		
事業区分 (いずれかに○)	<input checked="" type="radio"/> 研 修 調査研究 要望・陳情活動 会 議		
事業内容	議員力UP集中セミナー		
報告者	(会派名) 一関市議会 公明党 (代表者) 岩渕 優		
参加者	議員 岩渕 優	議員	印
	議員	議員	印
	議員	議員	印
	議員	議員	印
	議員	議員	印
報告要旨	1. 目的・・・・・・・・・・別紙(1) 2. 概要・・・・・・・・・・別紙(2) 3. 参考とすべき事項・所感・・・別紙(3)		
主要 資料名	1. 議会力をアップさせる議員報酬、定数、政務活動費		
	2. 議会運営における質問のあり方		

別紙（１）

1. 目的

- (1) 議員力アップのため
- (2) 今後の議会改革の参考とするため

別紙（２）

2. 概要

- (1) 議会力をアップさせる議員報酬、定数、政務活動費について
- (2) 議会運営における質問のあり方

*別紙資料による

別紙（３）

3. 参考とすべき事項・所感

- (1) 議会力アップについて
定数、報酬を考える7原則と三つの留意点、
*詳細添付別紙あり
- (2) 議会改革の到達点を踏まえた質問
政策過程におけるPDDDCAの取り組み
*詳細添付別紙あり
- (3) 所感
 - ①議会改革は、議会のポリシーが重要であることを痛感した
 - ②PDCAではなく、PとDの間に、2つのD（討議と決定）を入れるという考え方が、おぼろげながら分かっていたが、今回強く再認識することができた。当議会としても、このことをしっかり議論すべきである

2020年1月20日@地方議会総合研究所（知らなきゃ損する議会制度）
議会力をアップさせる議員報酬。定数。政務活動費

江藤俊昭
 山梨学院大学法学部
 teto0717@gmail.com

はじめに

- ① 従来だったらどうでもいい（高くても安くても）
- ② 新たな議会を目指すために重要な条件整備
- ③ 行政改革の論理（効率性）ではなく議会改革の論理を（地域民主主義の実現）：持続的民主主義

1. 地方政治の負の連鎖と正の連鎖の可能性：【資料1、2】

表1 議会改革と住民との関係

議会改革の段階	改革方向	住民との関係
前史（議会活性化）	一問一答方式、対面式議場、委員会の公開等	住民の不信の蔓延
本史	第1ステージ	見える化、住民と多くの接点
	第2ステージ	住民の福祉向上につなげる 住民の信頼づくりへ

表2 なり手不足の要因と解消の方途

なり手不足の要因	意欲の有無	解消の方途
魅力の減退〔不透明、非活発等〕	無： ならない	住民と歩む議会、住民福祉の向上に貢献する議会の創造
条件の悪さ〔報酬の低さ、定数減により当選ラインの上昇等〕		議員報酬の増額、議会事務局の充実
地域力の減退〔立候補予備軍の衰退（高齢化、自営業・農業の変化）〕	有： なれない	住民福祉の向上につなげる議会による地域活性化
法制度の拘束（兼職・兼業禁止等）		現場からの法改正提案

注：「意欲の有無」は、住民が立候補する際の意欲である。

2. 基本的視点：7つの原則をまず確認しよう：【資料3】

3. 議員報酬の考え方：原価方式（類似方式、成果方式、身分方式ではない！）

4. 定数の考え方：討議できる人数（従来は人口比）

2020年1月20日@(株)地方議会総合研究所
議会運営における質問のあり方

江藤俊昭
山梨学院大学法学部
teto0717@gmail.com

はじめに：学芸会批判、議会運営は質問場か？…
質問と質疑の異同

1. 質問の議会運営における位置

- ・「政策に生きる議員にとって、最もはなやかで意義ある発言の場」(全国町村議会議長会『議員必携』)
- ・「議員は、市の一般事務について、議長の許可を得て質問することができる」(標準市議会会議規則)
- ・地方自治法規定なし：議員間で運営するのが前提で必要があれば首長等の出席要請(ただし質問の規定なし)「普通地方公共団体の長、教育委員会の委員長、選挙管理委員会の委員長、人事委員会の委員長又は公平委員会の委員長、公安委員会の委員長、地方労働委員会の委員、農業委員会の会長及び監査委員その他法令又は条例に基く委員会の代表者又は委員並びにその委任又は囑託を受けた者は、説明のため議長から出席を求められたときは、議場に出席しなければならない。」(自治法 121)
- *反問の位置(本来は一方的、ただし討議の場にするには大きな意義)
- *質疑と質問、会派代表質問と一般質問

2. 議会改革の到達点を踏まえた質問とは

(1) 議会改革の到達点

- ① 議会改革の本史とその第2ステージ【資料1；飯田市議会】
- ② 政策過程におけるPDDCAサイクル【資料2】

(2) 政策過程における質問の位置

- ① 議会改革の前史(議会活性化)における質問：住民、議会・議員、首長等という三者間関係における質問(個人や「会派」によるお願い、監視)
- ② 議会改革の本史における質問(議会からの政策サイクル)：二元的代表制における質問【資料3】

*統治構造(自治体の基本構造)を認識する：議員や会派だけで政策は実現できない。
強調するように人格を持った議会(機関としての議会)での質問の位置
*選挙におけるマニフェストとの連動(これが次の選挙に連動させる)
*個々の議員のスタンドプレイは住民にはわかりやすい。議会からの政策サイクルでは、スタンドプレイが難しい。選挙との連動の開発は今後の研究課題である。

3. 質問の役割

総論. 96分

- (1) 議会の役割 (→住民自治の根幹→地域経営の重要な権限はすべて議会): 多様性、討議による論点の明確化・合意、世論形成
- (2) 質問の役割: 個人の意見から議会の意見とする (短期とともに長期の視点も)
 - ① 多様な視点からの監視・政策提言
 - ② 討議による論点の明確化の前提となる議員の意思
 - ③ 質問の公開による世論形成

4. 質問の空間時間: 実現を相対化する

- (1) 議会の多様な作法
 - ① 質問時間・制限→片道
 - ② 一問一答方式・一括質問一括回答、再質問→一問一答方式
 - ③ 関連質問→あり
 - ④ 通告制→論点の明確化
 - ⑤ 議場→対面式
 - ⑥ 議長の役割→議長による議論の活性化
 - ⑦ その他
- (2) 議会の多数派を創出する: 2つの道
 - ① アンダーザテーブル
 - ② 議会からの政策サイクルに連動させる: 議会基本条例はこの作法を想定

5. 質問作成の作法

- (1) ストーリーを構想する: 主副を位置づける: プレゼンテーションの手法を活用する
 - ① 問題意識の明確化 (事実認識、経過 (どのような議論がされていたか)、他の自治体・国の動向等)
 - ② 質問による勝ち取る目標
 - ③ 論理構成 (組み立て、明瞭性、時間配分等)
 - ④ 想定問答作成
- (2) 飯田市議会「たかが質問、されど質問」から【資料4:『たかが一般質問、されど一般質問』チェックリスト】
- (3) 仲間をつくる

6. 質問を「議会からの政策サイクル」の連動させる

- (1) 質問からの「議会からの政策サイクル」の手法